あがまちファンクラブ
Agamachi Fanclub

ドキュメンタリー映画

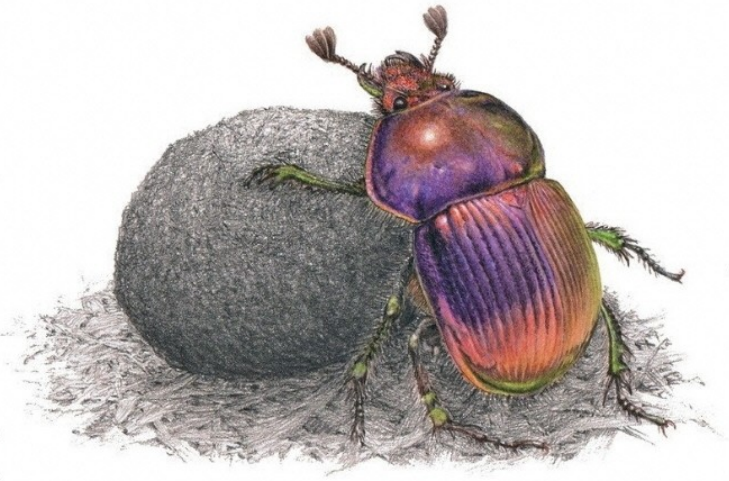
うんこと死体の復権

関野さん講演会
「自然の時間　人間の時間
自然の都合　自然のリズム」

上映会・講演会・クロストーク
&フィールド遊び　IN 阿賀町

2日目のフィールド遊びは
森からとってきたもので何かつくる
例えばアトラトル・弓矢・あけびカゴ・しめ縄などなど
火起こし・草とか虫とかとって食べちゃう？

こいつらすげえって
尊敬しはじめてきた



© 舘野鴻

監督：関野吉晴
出演：伊沢正名　高槻成紀　舘野鴻
プロデューサー：前田亜紀　大島新　製作：ネツゲン　クリエイト21　配給：きろくびと
2024年｜日本｜カラー｜106分　unkotoshitai.com

文部科学省選定作品

探検界のレジェンド・関野吉晴の初監督作品！

うんこと死体が地球を救う？価値観を覆す、鼻つまみ者たちを巡る　いのちの循環の旅へ

2026.12.12～13（土・日）

12/12 10：10～12：00 映画「うんこと死体の復権」鑑賞 1500円（小学生以下1000円）
13：30～16：00 関野さん講演会＆舘野さんとのクロストーク1000円（小学生以下500円）

12/13 10：00～16：00 関野さん舘野さん講師 フィールド遊び1000円（小学生以下500円）

1日目＆2日目フル参加 2500円（小学生以下1500円）

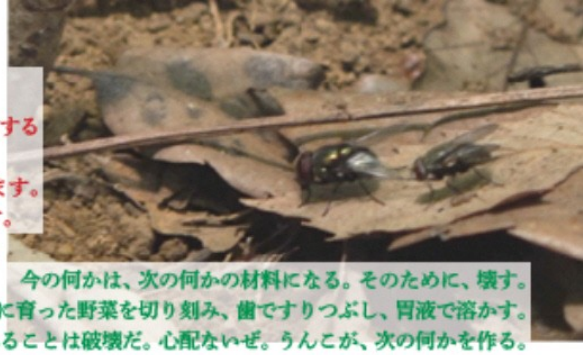
※　詳細なスケジュール、内容等は申し込まれた方にあらためて
お知らせします。

https://forms.gle/6yT4UZSEq1iCZJcH7

タイトルを見て怪訝な顔をしたあなたにこそ見てほしい！

・・・そう言ってはみたものの、きっとあなたも現代社会に逆行して、人が見ようとしないものを見ようとする好奇心旺盛な人間なのでしょう！（これを読んでいるからには。）
私も、自分のうんちが虫や微生物に食べてもらえているのを目撃した時、なんだか妙に！嬉しくなります。
毎日美味しいご飯を食べてばっかりじゃなくて、少しは誰かの役に立ちたい、と願っているからです。

—— コムアイ（アーティスト）



今の何かは、次の何かの材料になる。そのために、壊す。
立派に育った野菜を切り刻み、歯ですりつぶし、胃液で溶かす。
食べることは破壊だ。心配ないぜ。うんこが、次の何かを作る。
あとはまかせた。がんばれ！うんこ！死体と共に！

—— 甲本ヒロト（ザ・クロマニヨンズ）



人はものを食べる。人は食べものにもなる。いやそれどころか、
人は食べものを自分のからだから生み出しつづける。
人間世界で最も蔑まれてきたものにこそ、極上の美が宿る。
その美に取り憑かれた人たちのあらがいといつくしみの物語。

—— 藤原辰史（歴史研究者／京都大学准教授）

誰だってウンコをするし、いつか死ぬ。
だけど身近じゃないウンコと死体。
そこから「地球に生きる」ことを熱心に教えてくれる
イキイキとしたおじさん3人に大感謝。
ぎょえ！を覚悟で観てほしい。
みえてくる世界が変わるかも。

—— 小野りりあん（気候アクティビスト・モデル）



野グソがなぜ爽快なのか。それは動物たちの糞や死体に群がる虫たちに聞いてみるとよくわかる。排泄という行為は自然の流れの中に私たちを連れ出し、生と死が循環する意味を教えてくれる大切な入口なのだ。

—— 山極壽一（総合地球環境学研究所・所長）

R指定ですよね？
ちょっと良い子には見せられない（土は食べたらダメ、ゼッタイ！）。
でも、糞土師とウジ虫とセンチコガネが生み出すのは、かけがえのない土と命の循環だという発見と感動をトイレに流すのはもったいない。

—— 藤井一至（土の研究者）

「狂気」の学習映画である。
何せうんこと死体がテーマなのだからだ。それでも本作を観て我々こそが命の循環から外れているのだと気がついた時、野糞をする使命感が生まれるはずだ。

—— 丸山ゴンザレス（ジャーナリスト）

この映画は、ヤバい映画だ。

それくらいショッキングだと言うことを、断っておく。なんたって、うんこと死体が主役の映画なのだから。そして、死体とうんここそ表現の原点だ。うんこと死体が復権した時、魂の奥底から立ち上がってくるものがある。生きることができなかった陰の部分。動物としての感覚。懐かしい何か。きっとそれを表現したくなる。

—— 田口ランディ（作家）



死の輝きを寿ぐことを忘れてしまった私たちは、いのちの受け渡しの物語の中に、もう一度、還っていけるだろうか。地球の美しさとは、賑やかで逞しい死と生の饗宴そのものである。この奇跡を次世代へ贈るために、うんこと死体に出会い直さなければならない。さあ、大いなる出会いの旅へと漕ぎ出そう。この映画が満帆に風を与えてくれるのだから。

—— 湯澤規子（法政大学教授・歴史地理学者）

全ての生き物が循環の中にいる。昆虫や動物は毎日、死体や排泄物を食べて生きている。「きれいなもの」によって隠されてしまっている「死体」と「うんこ」。実はそれこそが循環の要なのだ。その当たり前のことがこうして目の前に持ち出されると、こうも過激な映画になるのか。都市化の進んだ江戸時代でも死体や排泄物や灰は土の中に戻っていったのに、私たちはその循環を切断してしまった。
何とかしなければと、胸がざわつく。—— 田中優子（法政大学前総長・名誉教授）



探検界のレジェンド
関野吉晴が初監督！

うんこと死体が地球を救う？

「グレートジャーニー」で知られる探検家で医師でもある関野吉晴はアマゾン奥地の狩猟採集民との暮らしを通して、自然とヒトとの関係について考え続けてきた。そして、関野は３人の賢人に出会う。野糞をすることに頑なにこだわり、半世紀に渡る野糞人生を送っている伊沢正名（いざわ・まさな）。うんこから生き物と自然のリンクを考察する生態学者の高槻成紀（たかつき・せいき）。そして、死体喰いの生き物たちを執拗に観察する絵本作家の舘野鴻（たての・ひろし）。３人の活動を通して、現代生活において不潔なものとされるうんこ、無きモノにされがちな死体を見つめると、そこには無数の生き物たちが織りなす、世の中の常識を覆す「持続可能な未来」のヒントが隠されていた。
75歳の探検家が4年をかけてあらたに挑んだ、いのちの循環をたどる“旅”は果たしてどんな結末に——。

うんこと死体の復権

監督：関野吉晴　出演：伊沢正名／高槻成紀／舘野 鴻　プロデューサー：前田亜紀／大島 新
撮影：松井孝行／船木 光／前田亜紀　編集：斉藤淳一　音響効果：金田智子　整音：高木 創
製作：ネツゲン／クリエイト21　配給：きろくびと　文部科学省選定（少年、青年、成人、家庭向き）

unkotoshitai.com
@unkotoshitai　@unkotoshitai
2024年｜日本｜DCP｜106分　G　設定

問い合わせ・申し込み：080-5224-8534
lhotse82@hotmail.com（堀口）
主催：阿賀町
企画運営：阿賀まちづくり株式会社

会場：阿賀町公民館
新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬8985番地1